

## 豊橋市家庭用エネルギー設備導入補助金交付要綱

### (趣旨)

第1条 この要綱は、豊橋市補助金等交付規則（平成7年豊橋市規則第8号）に定めるもののほか、家庭用エネルギー設備（以下「設備」という。）を導入する者に対し、豊橋市家庭用エネルギー設備導入補助金（以下「補助金」という。）を交付することについて、必要な事項を定めるものとする。

### (目的)

第2条 この補助金は、設備を購入し、住宅に設置する者に対し、その経費の一部を補助することにより、市民が行う住宅全体での創エネ・蓄エネ・省エネを積極的に支援し、もって地球温暖化防止対策を推進することを目的とする。

### (補助対象設備)

第3条 補助金の交付の対象となる設備は別表第1に掲げるものとし、補助の要件は以下のとおりとする。

#### (1) 共通要件

未使用品であること

#### (2) 太陽光発電設備

ア 太陽電池モジュール、架台、パワーコンディショナ（インバータ・保護装置）、接続箱、直流側開閉器、交流側開閉器、発生電力量計、余剰電力販売用電力量計等から構成されるものであること

イ 補助対象者本人が電気事業者と契約を行っているものであること（全量自家消費の場合を除く）

ウ 太陽光発電による電気が、当該太陽光発電設備が設置される住宅において消費されるものであること

エ 太陽電池モジュールの公称最大出力の合計値が10キロワット未満（キロワット表示で、小数点以下2桁未満は切り捨てる。）であること

オ 単体設備においては既築住宅（建築から1年以上経過し、かつ登記がされているもの）に設置するものであること

カ 一般財団法人電気安全環境研究所（以下「JET」という。）又はその他の認証機関に登録されているものであること

#### (3) 燃料電池

一般社団法人燃料電池普及促進協会により登録されているものであること

(4) ホームエネルギーマネジメントシステム（以下「HEMS」という。）ただし、太陽光発電設備とリチウムイオン蓄電池と同時設置する場合（以下「一体的導入」という。）に限り申請できる。

「ECHONET Lite」規格を標準インターフェイスとして搭載しているものであること

#### (5) リチウムイオン蓄電池

国の補助事業における補助対象機器として一般社団法人環境共創イニシアチブ（以下「SII」という。）により登録されているものであること

(6) 太陽光発電設備パワーコンディショナ（以下「太陽光パワコン」という。）の更新

ア 太陽光発電設備設置後10年経過し、発電効率低下による取り換えを行うもの

イ 当該太陽光パワコンが設置されている既築住宅（建築から10年以上経過し、かつ登記がされているもの）に設置するものであること。

ウ 蓄電池との同時申請の場合、ハイブリッド型のパワコン等複数以上の機能を有する設備（蓄電池と太陽光パワコン等が一体となっているもの）については対象としない。

エ JET若しくはその他の認証機関に登録されているものであること

#### (7) 太陽熱利用設備

ア 太陽熱エネルギーで温めた水を、循環ポンプを用いずに自然対流させ給湯に利用するもの（以下「自然循環型」という。）、又は不凍液等を強制循環する太陽熱集熱器と蓄熱槽から構成され、給湯又は空調に利用するものや、空気を集熱ファンで強制循環する太陽熱集熱器と蓄熱槽から構成され、空調又は給湯に利用するもの（以下「強制循環型」という。）であること

イ 一般財団法人ベターリビングの優良住宅部品（B L部品）認定を受けたものであること

(8) ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（以下「Z E H」という。）を構成する設備

国がZ E H普及促進を目的に実施する補助金（以下、「国Z E H補助金」という。）における補助金の交付等を受けるものであること。ただし、同一年度において第2号から第7号の対象設備との同時申請はできないものとする。また第2号から第7号に掲げる規定は適用しないものとする。

（補助対象者）

第4条 補助金の交付の対象者は、次に掲げる条件をすべて満たし、設備を設置する者（個人）とする。

(1) 次のいずれかに該当するもの

ア 自ら居住し、又は居住予定である市内の住宅に設備を設置しようとする者

イ 自ら居住するため、建売住宅供給者等から市内の設備付き建売住宅（以下「設備付き建売住宅」という。）を購入しようとする者

(2) 第8条第1項の規定による申請の際に、設備を設置した住宅の所在地に住民基本台帳の登録がある者

(3) 豊橋市が徴収する税を滞納していない者

(4) とよはしエコファミリー宣言に賛同し、エコファミリー登録に同意する者

2 前項の条件をすべて満たす者においても、本人または本人と同一世帯に属する者が過去に同一設備で同様の補助金交付を受けた場合は、この要綱の補助金交付を受けることができない。ただし、第11条の規定による当該設備の使用の期間が経過している場合は、この限りではない。また、財産処分により第14条に基づく補助金の返還を行った場合においても、当該設備の当初の使用期間が経過していない場合は、補助金交付を受けることができないものとする。なお、補助金の交付については前条に掲げる補助対象設備ごとに1世帯につき1基とする。

3 前項の規定に限らず、天災等による破損等、自己の責めに帰さない事由で補助対象設備を処分し、第12条第2項の規定に基づき処分承認の手続きを行った者は、補助金交付を受けることができるものとする。

（補助対象経費及び補助金の額）

第5条 補助対象経費及び補助金の額は、別表第1のとおりとする。

（事前の申込み等）

第6条 補助金の交付を受けようとする者は、補助対象設備に係る設置工事の着工予定日（設備付き建売住宅を購入する場合には、当該引渡し予定日）の14日前（その日が豊橋市の休日を定める条例（平成3年豊橋市条例第3号）による市の休日に当たるときは、市の休日の前日）までに、あらかじめ事前申込書（様式第1）に次に掲げる書類等を添付して、市長に申し込まなければならない。

(1) 設置予定設備報告書（様式第2、第3、第4）

(2) 補助対象設備の設置工事に係る工事請負契約書又は建売住宅における売買契約書の写し（ただし、契約書により対象設備の設置が確認できない場合、見積書等を添付すること）

(3) 太陽光発電設備を設置する予定の場合

ア 既築住宅に設置する場合、住宅全景のカラー写真

イ J E T又はその他の認証機関に登録済みの製品であることのわかる書類

- (4) HEMSを設置する予定の場合、「ECHONET Lite」規格を標準インターフェイスとして搭載していることわかる書類
  - (5) リチウムイオン蓄電池を設置する予定の場合、S I Iに登録済の製品であることわかる書類
  - (6) 太陽光パワコンの更新をする場合
    - ア 既存の太陽光パワコンのカラー写真
    - イ 設置後10年経過したことを証明する書類
    - ウ J E T又はその他の認証機関に登録済みの製品であることわかる書類
  - (7) Z E Hを建築または購入する予定の場合
    - ア 国Z E H補助金の交付決定通知書の写し又は事前申込書の提出期限までに国Z E H補助金の交付決定通知書の写しが提出できない場合は、理由書(様式第22)。ただし、国の交付決定通知書が到達した場合、速やかにその写しを市長に提出しなければならない。なお、交付決定通知書の写しにZ E H以上の性能であることが分かる記載がない場合、B E L S評価書等、第三者機関の発行する証明書(Z E Hマークが表示されたもの)の写しの書類を添付しなければならない。
      - イ Z E Hを構成する設備の設置場所が分かる建築図面(平面図及び立面図)の写し
  - (8) Z E Hを既築住宅に導入しようとする場合、設置を予定している住宅のカラー写真
  - (9) 自己の所有しない住宅等に補助対象設備を設置する場合は、当該住宅等の所有者の承諾書
  - (10) その他市長が必要と認めたもの
- 2 市長は、事前申込書の提出があったときは、その内容を審査し、適当と認めたときは、当該事前申込書の余白に受理した旨の記載をし、その写しを申込者に通知し、事前申込みを完了するものとする。
- 3 市長は、事前申込書を先着順に受け付けるものとし、予算の範囲を超えるときは受付を停止することができる。
- 4 補助金の交付を受けようとする者は、第2項の規定による事前申込みの完了を受ける前に、補助対象設備に係る設置工事に着手し、又は設備付き建売住宅の引渡しを受けてはならない。

(計画変更等)

第7条 前条第2項の規定による事前申込みの完了を受けた者(以下「申込者」という。)は、事前申込書を受理された後において、次の各号のいずれかに該当する変更を行うときは、速やかに事前申込変更申請書(様式第5)により市長に申し出なければならない。ただし、第3号による変更をする場合は、申込年度の3月31日(その日が豊橋市の休日を定める条例(平成3年豊橋市条例第3号)による市の休日に当たるときは、市の休日の前日)までに遅延理由報告書(様式第6)及び遅延の根拠を証明する書類を添付するものとする。

- (1) 補助金交付予定額の増減があるとき
  - (2) 補助対象設備設置(設備付き建売住宅の場合にあつては、当該購入)の中止、又は補助対象者の条件を満たさなくなったことによる事前申込みの取下げをするとき
  - (3) 天災、社会情勢など、申込者及び施工業者等の責めに帰さない理由により工期が遅延し、年度内に交付申請ができない場合による事前申込みの変更をするとき
- 2 市長は、事前申込変更申請書の提出があったときは、その内容を審査し、適当と認めたときは、当該事前申込変更申請書の余白に受理した旨の記載をし、その写しを申込者に通知するものとする。

(交付申請等)

第8条 申込者は、補助対象設備に係る設置工事又は設備付き建売住宅の引渡しを完了したとき(以下「事業完了」という。)は、補助金交付申請書(様式第7)に次の書類等を添付して、次項に規定する期限までに、市長に申請しなければならない。

- (1) 補助対象経費確認書兼領収証明書(様式第8、第9、第10)
- (2) 太陽光発電設備においては、以下のとおりとする。

ア 電力会社からの「発電設備の連系に関するお知らせ」の写し、又は全量自家消費である

ことが確認できるメーカーが発行する保証書等の写し、かつ逆流を防止する装置を付けていることがわかるもの

イ 太陽光モジュールの製造者又は製造者を代行する業者が発行した出力対比表の写し。ただし、設置した全太陽光モジュールの測定値の記載のある製造番号票を貼付した台紙（様式第11）に代えることができる。

ウ 設置した住宅等の全景のカラー写真、パワーコンディショナ（インバータ・保護装置）のカラー写真、太陽電池モジュールの設置面のカラー写真、住宅以外の建物等に当該太陽電池モジュールを設置した場合は、その連系点である住宅との連携部分が確認できる配線のカラー写真、全量自家消費の場合、逆流を防止する装置であることがわかるものの全景のカラー写真を貼付した台紙（様式第12）

エ 太陽電池モジュールの配置図

オ 設備付き建売住宅にあつては、設備付き建売住宅であることを確認できる立面図

(3) 燃料電池においては、以下のとおりとする。

ア 燃料電池本体のカラー写真、燃料電池ユニットに添付されている製造番号が確認できる銘板等のカラー写真を貼付した台紙（様式第15）

イ 工事完了報告書（様式第17）、メーカー発行の保証書の写し

(4) HEMSにおいては、以下のとおりとする。

ア HEMSが起動している状態が確認できるモニター等機器のカラー写真を貼付した台紙（様式第13）

イ 工事完了報告書（様式第17）、メーカー発行の保証書の写し

(5) リチウムイオン蓄電池においては、以下のとおりとする。

ア リチウムイオン蓄電池本体のカラー写真、型番及び製造番号が確認できる銘板等のカラー写真を貼付した台紙（様式第14）

イ 工事完了報告書（様式第17）、メーカー発行の保証書の写し

ウ 保証書にS I Iにより登録されているパッケージ型番の記載がない場合、出荷証明等の構成機器のわかるものの写し

(6) 太陽光パワコンの更新においては、以下のとおりとする。

ア 設置が確認できる太陽光パワコン本体のカラー写真、型番及び製造番号が確認できる銘板等のカラー写真を貼付した台紙（様式第16）

イ 工事完了報告書（様式第17）、メーカー発行の保証書の写し

(7) 太陽熱利用設備においては、以下のとおりとする。

ア 設置が確認できる太陽熱利用設備本体のカラー写真（様式第16）

イ 工事完了報告書（様式第17）、メーカー発行の保証書の写し

(8) ZEHにおいては、以下のとおりとする。

ア 国ZEH補助金の交付額確定通知書の写し（補助金交付申請書の提出期限までに国から未到達の場合は、既に国から通知されている交付決定通知書の写しを提出することにより審査を受けることができる。ただし、国から交付額確定通知書が到達した場合、速やかにその写しを市長に提出しなければならない。）

イ ZEHを構成する設備の設置状況がわかるカラー写真

(9) 設置場所の住所の表記が事前申込み時と異なる場合、当該設置場所が同じであることが確認できる書類

(10) その他市長が必要と認めたもの

2 第3条第2号から第7号に掲げる補助対象設備における前項の規定による申請の期限は、全ての事業完了日の翌日から起算して2か月以内又は事前申込みが受理された年度の3月31日（その日が豊橋市の休日定める条例（平成3年豊橋市条例第3号）による市の休日に当たるときは、市の休日の前日）のいずれか早い日とする。ただし、天災その他のやむを得ない理由があると特に市長が認めるときは、この限りではない。なお、事業完了日は別表第2に掲げるとおりとする。

3 第3条第8号に掲げる補助対象設備における前項の規定による申請の期限は、事前申込みが受理された年度の3月31日（その日が豊橋市の休日定める条例（平成3年豊橋市条例第3号）

による市の休日に当たるときは、市の休日の前日) までとする。

- 4 第2項及び第3項の申請期限までに第1項の規定による申請をしなかった申込者に係る事前申込みは、失効するものとする。
- 5 第2項の規定に関わらず、次に該当する者の申請の期限は、全ての事業完了日の翌日から起算して2か月以内とする。なお、事業完了日は別表第2に掲げるとおりとする。ただし、補助制度及び補助額は交付申請年度の補助制度及び予算に基づくものとする。
  - (1) 第7条第1項第3号に該当し、同条第2項の写しを添えて交付申請をする者

(交付の決定等)

- 第9条 市長は、前条第1項の規定による申請を受けたときは、その内容を審査し、及び必要に応じて現地調査等を行い、適当と認めるときは、補助金の交付を決定し、補助金交付決定通知書(様式第18)により当該申請をした者(以下「申請者」という。)に対し通知するものとする。
- 2 交付が不相当と認められた場合は、補助金不交付決定通知書(様式第19)により申請者に対し通知するものとする。

(補助金の請求及び交付)

- 第10条 前条第1項の規定による補助金の交付決定を受けた者(以下「補助事業者」という。)は、速やかに請求書(様式第20)を提出し、市長は、これに基づき補助金を交付するものとする。

(使用の期間)

- 第11条 補助事業者は、当該補助対象設備を次の各号の期間継続して使用しなければならない。
- (2) 第3条第2号から第5号及び第7号に定める設備においては、減価償却資産の耐用年数等に関する省令(昭和40年大蔵省令第15号)に定める耐用年数の期間
  - (3) 第3条第6号に定める太陽光パワコンの更新においては、10年間  
ただし、連系する太陽光発電設備の残りの耐用年数が10年未満の場合は、太陽光発電設備の耐用年数の残期間とする。
  - (4) 第3条第8号に定めるZEHを構成する設備においては、6年間

(財産処分の制限)

- 第12条 補助事業者は、前条に定める期間内において、補助事業により取得した財産を、補助金交付の目的に反して使用し、売却し、譲渡し、交換し、廃棄し、貸し付け、又は担保に供してはならない。(以下「処分等」という。)
- 2 補助事業者は、前項に規定する処分等をする場合は、あらかじめ処分承認申請書(様式第21)を市長に提出しなければならない。ただし、天災等による破損等、自己の責めに帰さない事由で補助対象設備を処分等する場合は、事後の提出でよいものとする。

(補助金交付の取消し)

- 第13条 市長は、補助事業者が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、補助金交付の決定の全部又は一部を取り消すことができる。
- (1) 偽りその他不正の手段により補助金の交付を受けたとき。
  - (2) 補助金を他の用途に使用したとき。
  - (3) 補助金の交付の条件に違反したとき。

(補助金の返還)

- 第14条 市長は、補助金交付の決定を取り消した場合において、当該取消しに係る部分に関し、既に補助金が交付されているときは、補助事業者に対し期限を定めて当該補助金の全部又は第11条に定める使用の期間を月数に換算したものから既に使用した月数を減じた期間に相当する補助額(千円未満の端数があるときは、その端数は切り捨てるものとする。)の返還を命ずるものとする。ただし、第3条第2号、第4号、第5号に定める設備を一体的に導入する申請の場合(太陽光、HEMS、蓄電池の一体的導入)においては、別表第3に定める金額を各設備の補助

額として扱い、返還を命ずるものとする。

(加算金)

第 15 条 補助事業者は、前条の規定により補助金の返還を命ぜられたときは、豊橋市補助金等交付規則第 15 条の規定に準じて、加算金を市に納付しなければならない。

(現地調査)

第 16 条 市長は、補助金の適正かつ円滑な運営を図るため、必要に応じて補助事業者に対し報告を求め、又は現地調査を行うことができる。また、補助事業者は、市長の求めに応じなければならない。

(協力要請)

第 17 条 市長は、補助事業者に対し、補助金に関するアンケート調査、データ提供等の協力を求めることができる。

(雑則)

第 18 条 この要綱に定めるもののほか、補助金の交付に必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱の施行の日から平成 24 年 7 月 14 日までの間、第 4 条第 3 号中「住民基本台帳の登録がある者」とあるのは「住民基本台帳の登録又は外国人登録がある者」と、第 8 条第 1 項第 6 号中「住民票」とあるのは「住民票 (外国人にあっては登録原票記載事項証明書)」と読み替えるものとする。

(豊橋市太陽光発電システム設置整備事業補助金交付要綱の廃止)

3 豊橋市太陽光発電システム設置整備事業補助金交付要綱 (平成 23 年 3 月 28 日決裁) は、廃止する。

附 則 (平成 25 年 3 月 28 日決裁)

(施行期日)

この要綱は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 26 年 3 月 28 日決裁)

(施行期日)

この要綱は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 27 年 3 月 27 日決裁)

(施行期日)

この要綱は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (平成 28 年 2 月 1 日決裁)

(施行期日)

1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

(適用)

2 改正後の豊橋市住宅用太陽光発電システム設置整備事業補助金交付要綱 (以下「改正後の要綱」という。) の規定は、平成 28 年 4 月 1 日以降の交付申請から適用する。

(経過措置)

3 この要綱の施行の際、改正前の豊橋市住宅用太陽光発電システム設置整備事業補助金交付要綱の規定により作成されている様式第 5 及び様式第 10 は、改正後の要綱の規定にかかわらず、当分の間、これを使用することができる。

附 則 (平成 28 年 3 月 31 日決裁)

(施行期日)

- 1 この要綱は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。  
(豊橋市住宅用燃料電池システム導入補助金交付要綱の廃止)
  - 2 豊橋市住宅用燃料電池システム導入補助金交付要綱(平成 28 年 2 月 1 日決裁)は、廃止する。  
(豊橋市住宅用ホームエネルギーマネジメントシステム導入補助金交付要綱の廃止)
  - 3 豊橋市住宅用ホームエネルギーマネジメントシステム導入補助金交付要綱(平成 28 年 2 月 1 日決裁)は、廃止する。  
(豊橋市住宅用リチウムイオン蓄電池導入補助金交付要綱の廃止)
  - 4 豊橋市住宅用リチウムイオン蓄電池導入補助金交付要綱(平成 28 年 2 月 1 日決裁)は、廃止する。  
(豊橋市木質燃料利用促進事業補助金交付要綱の廃止)
  - 5 豊橋市木質燃料利用促進事業補助金交付要綱(平成 28 年 2 月 1 日決裁)は、廃止する。  
(経過措置)
  - 6 改正後の豊橋市家庭用エネルギー設備導入補助金交付要綱の規定によるペレットストーブに対する補助金の交付は、平成 28 年 4 月 15 日以後に設置が完了する者から適用し、同日前に設置が完了した者については、なお従前の例による。  
附 則(平成 29 年 3 月 29 日決裁)  
(施行期日)  
この要綱は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。  
附 則(平成 30 年 3 月 28 日決裁)  
(施行期日)  
この要綱は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。  
附 則(平成 31 年 3 月 28 日決裁)  
(施行期日)  
この要綱は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。  
附 則(令和 2 年 3 月 27 日決裁)  
(施行期日)  
この要綱は、令和 2 年 4 月 1 日から施行する。  
附 則(令和 2 年 12 月 23 日決裁)  
(施行期日)
- 1 この要綱は、令和 3 年 1 月 1 日から施行する。  
(経過措置)
  - 2 この要綱の施行の際、改正前の豊橋市家庭用エネルギー設備導入補助金交付要綱の規定により作成されている様式第 1、様式第 5、様式第 6、様式第 16、様式第 17、様式第 20、様式第 21 は、改正後の豊橋市家庭用エネルギー設備導入補助金交付要綱の規定にかかわらず、当分の間これを使用することができる。  
附 則(令和 3 年 3 月 29 日決裁)  
(施行期日)  
この要綱は、令和 3 年 4 月 1 日から施行する。  
附 則(令和 4 年 3 月 31 日決裁)  
(施行期日)
- 1 この要綱は、令和 4 年 4 月 1 日から施行する。  
(経過措置)
  - 2 第 8 条第 5 項の規定は、令和 5 年 4 月 1 日から適用する。  
附 則(令和 4 年 7 月 14 日決裁)  
(施行期日)
- 1 この要綱は、令和 4 年 7 月 15 日から施行する。  
(経過措置)
  - 2 改正後の豊橋市家庭用エネルギー設備等導入補助金交付要綱第 6 条第 1 項第 7 号の国 Z E H 補助金に係る規定は、令和 4 年 7 月 29 日以降に補助対象設備に係る設置工事に着手するものから適用する。なお、国 Z E H 補助金のうち、国土交通省所管こどもみらい住宅支援事業による申

込みににおいて、令和4年7月28日以前に補助対象設備に係る設置工事に着手した場合は、令和4年7月28日までに第6条第1項の規定による申し込みを行えば着手後でもよいものとし、この場合、同条第4項の規定は適用しないものとする。

附 則（令和5年3月31日決裁）

（施行期日）

この要綱は、令和5年4月1日から施行する。

附 則（令和6年3月29日決裁）

（施行期日）

この要綱は、令和6年4月1日から施行する。

別表第1（第3条及び第5条関係） 補助対象経費及び補助額

補助項目	補助対象経費 (消費税及び地方消費税を除く)	補助額 (当該額に千円未満の端数があるときはこれを切り捨てる)
太陽光発電設備(※)	太陽電池モジュール、架台、インバータ、保護装置、接続箱、直流側開閉器、交流側開閉器、モニター、配線・配線器具の購入・据付、設置工事に係る費用	補助対象設備を構成する太陽電池モジュールの公称最大出力の合計値（kW表示で小数点以下2桁未満を切り捨て。）に12,000円を乗じて得た額とし、補助対象経費の20分の1の額又は48,000円のいずれか低い額を上限とする。
燃料電池	燃料電池ユニット、貯湯ユニット、付属品他（リモコン、配管カバー、燃料電池システム試運転に係る費用）、配線・配線器具の購入・据付、配管・配管器具の購入・据付、上記工事に付随するその他工事に係る費用	一件40,000円
リチウムイオン蓄電池(※)	リチウムイオン蓄電池と電力変換装置（インバータ、コンバータ、パワーコンディショナ等）で構成される設備の購入・据付、設置工事に係る費用	補助対象設備を構成するリチウムイオン蓄電池の蓄電容量（kWh表示で小数点以下1桁未満を切り捨て。）に10,000円を乗じて得た額とし、補助対象経費の20分の1の額又は70,000円のいずれか低い額を上限とする。
太陽光パワコンの更新	設備の購入費、設置工事費	補助対象経費に5分の1を乗じて得た額とし、50,000円を上限とする。
太陽熱利用設備	設備の購入費、設置工事費	自然循環型については一件20,000円とする。 強制循環型については一件30,000円とする。
一体的導入	(1) 太陽光発電設備 上記と同じ (2) HEMS データ集約機器、通信装置、制御装置、モニター装置、計測装置、配線・配線器具の購入・据付その他対象設備の設置工事に関する費用 (3) リチウムイオン蓄電池 上記と同じ	一件120,000円



Z E Hを構成する設備	Z E Hを構成する高断熱外皮、空調設備、給湯設備、省エネルギー設備（換気設備、照明設備）、太陽光発電設備等の再生可能エネルギー発電設備、エネルギー計測装置（H E M S）の購入・据付、設置工事に係る費用	一件160,000円
--------------	---	------------

※太陽光発電設備又はリチウムイオン蓄電池の補助項目において、ハイブリッドパワーコンディショナ等の複数以上の機能を有する機器を導入する場合の補助対象経費は、当該機器の導入費用を、有する機能数で按分した額とする。

別表第2（第8条関係）事業完了日

設備	事業完了日
太陽光発電設備	余剰売電の場合は系統連系・受給を開始した日
	全量自家消費の場合は保証書に記載される保証の開始日
燃料電池	保証書に記載される保証の開始日
H E M S	保証書に記載される保証の開始日
リチウムイオン蓄電池	保証書に記載される保証の開始日
太陽光パワコンの更新	保証書に記載される保証の開始日
太陽熱利用設備	保証書に記載される保証の開始日
一体的導入	各設備の事業完了日のうち一番遅い期日

※建売住宅の場合、引渡し日（住民票移動日）又は各設備の事業完了日のうち一番遅い期日とする。

別表第3（第14条関係）一体的導入における各設備の補助額

設備	金額
太陽光発電設備	50,000円
H E M S	5,000円
リチウムイオン蓄電池	65,000円